

学校経営推進費 事業計画書

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立とりかい高等支援学校
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	(1) ICT 機器を活用した「主体的で対話的な深い学び」を軸にした指導力・授業力の向上 (2) 生徒の自己肯定感を高め、自己実現、自立のための力、働き続ける力の向上 (3) 支援学校における児童・生徒、保護者の学校満足度の向上
計画名	Fly To The Future ～それぞれの自立のために～

2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 社会的自立に必要な力を養うための特色ある教育活動の充実</p> <p>(1) 次期学習指導要領をふまえた教育課程の確立と、確かな学力をはぐぐむために、「主体的で対話的な深い学び」を軸に授業改善に努める。</p> <p>(2) キャリア教育の観点からの自立活動を充実させることにより、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導、支援をはかる。</p> <p>(3) 生徒の自己肯定感を高め、自己実現と働き続ける力を育成するための「進路学習・進路指導」の推進。</p> <p>2 高等支援学校教員としての専門性の確立とこれからの時代の変化に対応できる組織力向上</p> <p>(1) 教員全員の指導力、授業力の向上を組織的に推進し、社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員の育成をめざす</p>
事業目標	<p><本校の課題></p> <p>本校の生徒たちにとって高校生活の3年間で「生きる力」を育成することは大きな課題である。障がいにより不足している経験を補うために、ICTをより多く活用し、「生きる力」の育成に努めたい。</p> <p>視覚支援や聴覚支援の必要な生徒が多い中、大型テレビなどを活用した授業は本校の教育活動の中心になりつつある。しかし、テレビ台数の不足により、経験を積む機会を逸している現状があり、生徒たちの「生きる力」育成のためにも、自らの考えを伝えることや発表の機会をICT活用により増やしていきたい。</p> <p><事業概要></p> <p>電子黒板が各教室に配置された場合は(1)から(3)の目標達成をめざす。</p> <p>(1) 電子黒板、タブレット端末を中心にICT機器を効率的に活用し、未知の情報を得ることで受け身の授業から、友だち同士での教え合いや、学びの発表など、自ら学ぶことができることにより知識・技能の定着をはかる。他者を意識した話す力、聞く力の育成をめざす。また、すべての授業で視覚支援、聴覚支援を行うことで分かりやすい授業を実践し、生徒の能動的な学習時間が増える。</p> <p>(2) 教え合い、発表をする→知識・技能の定着→自信がつく→主体的・意欲的に学ぶという正のスパイラルを生み、自己肯定感を高め、就労するための力を身につける。</p> <p>(3) 生徒の満足度だけでなく、生徒の成長を感じることで保護者の満足度の向上につながる。</p>
整備する 設備・物品	普通教室9室、特別教室4室への電子黒板機能付き単焦点プロジェクタ、壁付け金具、インターフェイスボックス、配線工事、ワイヤレスディスプレイアダプタ、プロジェクタスクリーン、配線工事費(設置する場所によってケーブルの長さが変わるためHDMIケーブル、RGBケーブル、USBケーブルを含む)

取組みの概要	取組内容	前年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ FT2F (FLY TO THE Future) チーム (ICT 機器を活用した授業力向上委員会) を発足した。(6月) ・ FT2F チームのメンバー中心に「関西教育 ICT 展」や「関西教育 IT ソリューション EXPO」に出張し、ICT 機器について調査、研究した。(8、9月) ・ 電子黒板を1台レンタルして全教員に研修(3回)を行い、活用後に教員アンケートを取った。(10月) ・ 教員のアンケートや生徒の感想などを元に、職員会議で教職員の合意を得て、学校経営推進費対象の事業計画として決定した。(2月)
		初年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員向け ICT 機器に向けた活用研修(4~5月) ・ FT2F チームによる ICT 機器管理方法の検討と職員への周知、府立高等支援学校への授業視察(~7月) ・ 生徒への授業アンケート(7,12,3月) ・ 全教職員向け機器利用等研修(8月) ・ FT2F チームによる生徒教員 ICT 機器の活用、理解度満足度調査(12,3月) ・ ICT 機器を活用した授業公開(12月) ・ FT2F チームによる活用調査、理解度参加度の分析と情報共有(1月) ・ FT2F チームによる1年めの検証、改善に向けて検討、活用方法の収集(3月)
		2年め	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全教職員向け機器利用等研修、FT2F チームによる活用調査、理解度参加度の分析と情報共有(4月) ・ ICT 機器を活用した授業公開、研究協議(2,12月) ・ 生徒への授業アンケート、FT2F チームによる生徒教員 ICT 機器の活用、理解度満足度調査(7,12,3月) ・ FT2F チームによる活用調査、理解度参加度の分析と情報共有(8,1月) ・ FT2F チームによる2年めの検証、改善に向けて検討、活用方法の収集(3月)
		3年め	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全教職員向け機器利用等研修、FT2F チームによる活用調査、理解度参加度の分析と情報共有(4月) ・ ICT 機器を活用した授業公開、研究協議(7,12月) ・ 生徒への授業アンケート、FT2F チームによる生徒教員 ICT 機器の活用、理解度満足度調査(7,12,3月) ・ FT2F チームによる活用調査、理解度参加度の分析と情報共有(8,1月) ・ 各教科で3年間の ICT 機器の活用について検証及びまとめ(9~12月) ・ FT2F チームによる3年間の検証と取組みを冊子、Web ページなど外部へ公開(1~3月)
	取組みの 主担・実施者	<p>FT2F (FLY TO THE Future) チーム (ICT 機器を活用した授業力向上チーム) 構成メンバー 教頭、首席、各教科代表、教務部情報係</p>	
成果の検証方法 と評価指標	初年度	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校教育自己診断(生徒)の「授業の工夫」「授業が分かりやすい」の項目の肯定率を90%とする。授業の ICT 機器を用いた公開授業(3名)を行い、ICT 機器を活用する教員の割合を60%とする。 (2) FT2F チームの調査の「自己肯定感を高めた」、「自己実現、自立のための力を持った」、「働き続ける力を持った」の項目の肯定率を85%以上にする。 (3) 生徒、保護者の学校満足度の肯定率を85%とする。 	
	2年め	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校教育自己診断(生徒)の「授業の工夫」「授業が分かりやすい」の項目の肯定率を95%とする。授業の ICT 機器を用いた公開授業(6名)を行い、ICT 機器を活用する教員の割合を75%とする。 	

		<p>(2) FT2F チームの調査の「自己肯定感を高めた」、「自己実現、自立のための力を持った」、「働き続ける力を持った」の項目の肯定率を90%以上にする。</p> <p>(3) 生徒、保護者の学校満足度の肯定率を90%とする。</p>
	<p style="text-align: center;">3 年 め</p>	<p>(1) 学校教育自己診断（生徒）の「授業の工夫」「授業が分かりやすい」の項目の肯定率を100%とする。授業のICT機器を用いた公開授業（8名）を行い、ICT機器を活用する教員の割合を85%とする。</p> <p>(2) FT2F チームの調査の「自己肯定感を高めた」、「自己実現、自立のための力を持った」、「働き続ける力を持った」の項目の肯定率を95%以上にする。</p> <p>(3) 生徒、保護者の学校満足度の肯定率を100%とする。</p>